

科目名・クラス	開講期間	曜日・時限	単位数	担当者名
国際エネルギー戦略論	後期		2	上久保 誠人
授業の概要				
<p>エネルギーをめぐる問題は、現在の国際社会で最も関心が高いものの1つである。中国の資源買い漁り、ロシア、イランなどの地政学的リスク、日本の海洋資源を巡る中露との争い、石油資源の枯渇と代替エネルギーの開発、地球温暖化を巡る先進国と新興国の対立、そしてなにより原子力発電所を巡る問題など、さまざまな問題がある。この授業では、地政学、国際政治経済学の発想をベースに、一般的にバラバラに論じられがちなこれらの問題を相互に関連あるものとして包括的に理解し、米、英、露、中、EU、イランなど中東、新興国などのエネルギー戦略を分析する。そして、日本のエネルギー戦略はどうあるべきかを考察する。</p> <p>また、この授業では「グリニッジ標準時から見た国際社会」という、日本ではあまり一般的ではない視点を導入する。日本では太平洋を中心とした世界地図で国際社会を見ることが多い。ここでは日本と米国は隣国であり、欧州や中東は遠隔地に見える。しかし、日本以外で使われることが多い「グリニッジ標準時」を軸にした世界地図で見ると、大西洋を中心にして米国、欧州、中東は近隣であり、日本は極東に位置している。この視点を導入する狙いは、日本のエネルギー戦略を第三者から視点から客観的に評価してみることである。</p> <p>この授業ではこの授業は、講師の商社マンとしてのビジネスや海外留学の経験など様々な話題も交えながら進めたい。</p>				
到達目標				
エネルギーを巡る国際関係と日本の戦略のあり方の包括的な理解。多角的なものの見方の習得。				
履修しておくことが望まれる科目				
なし				
授業スケジュール（※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります）				
授業回数	テーマ	キーワード		
1	イントロダクション	授業の概要説明。		
2	なぜ原発事故は起きたのか？：政治学の観点から	原子力ムラ、日本の国内政策過程 電力会社 VS 経産省（通産省）、御用学者 地域開発と原発		
3	英米系地政学	マッキンダー・スパイクマン地政学		
4	石油（1）：石油を巡る国際関係の概観	石油を巡る、米、英、EU、露、中、中東、そして日本などの国際関係の概観。		
5	石油（2）：中東のリスク	歴史：メジャー支配から OPEC の盛衰 イランの核開発ゲームと石油。 内乱状態のイラク、サウジの「安定性」。		
6	石油（3）：中国の台頭、ロシアの野望	中国のエネルギー獲得戦略と悩み 中国の国際石油市場への不信 ロシアのエネルギー資源再国有化とオリガーキー（新興財閥）の追放。 極東開発を巡る日中との駆け引き 中央アジアを巡る米英との争い。		
7	石油（4）：日本の戦略	国産メジャーの野望と挫折。 苦戦が続く石油開発。 中東依存度が90% 供給先の多様化と備蓄の戦略。		
8	原子力発電を巡る国際関係（1）	なぜ原子力の平和利用は始まったか。 「鉱物メジャー」とは。 石油ショック後：英米 VS 独仏・途上国の対立。 「石油メジャー」VS「鉱物メジャー」		
9	原子力発言を巡る国際関係（2）	冷戦終結と原発の減少。 環境問題と原発の復権。 フクシマ以後の、「原発推進」VS「脱原発」の国際関係。		

10	環境問題(1):地球温暖化を巡る国際関係、概観	冷戦の終結と環境問題。 環境先進国と新興国の対立。
11	環境問題(2):新興国・、欧州、そして日本	中国、ブラジルの野望。 欧州の主導権。 英国のしたたかな戦略「カーボン通貨」。 「ルール作り」の経験がない日本。 環境技術をどう戦略化するか？
12	代替エネルギーと日本の戦略(1):天然ガス	天然ガスを巡る国際関係・地政学 ロシアと欧州の攻防。 日本の天然ガス獲得戦略。 中国との天然ガス争奪戦。
13	代替エネルギー(2):さまざまな新エネルギー	米国の新エネルギー戦略。 バイオ燃料の展望。 環境問題と新技術。 電気自動車、ハイブリット車の開発 「燃える水」メタンハイドレード。 カナダのオイルサンド。 ベネズエラのオリノコタル。
14	海洋資源:日本の海洋資源と国際関係	世界4位の海洋大国の日本 日本の海に眠るエネルギーと鉱物資源 ウラン、メタンハイドレード、天然ガス、 海底熱水鉱床の鉱物、レアメタル。 尖閣列島周辺の700兆円の油田。 「世界三大漁場」の豊富な水産資源。 海の利用権を巡る国際的争い。 狙われる「日本の海」。 北方領土、竹島、尖閣諸島対策の戦略とは。
15	まとめ	日本のエネルギー戦略はどうあるべきか。

(学部科目)授業外学習の指示 / (大学院科目)授業の方法

この授業は「エネルギー問題」理解の入り口でしかありません。授業を通じて1つでも関心を持ったことがあったら、新聞を読み、本を読み、友達と議論をして、理解を深めることに努めてください。

成績評価方法 (※原則として変更されることはありません)

種別	割合	評価基準等
定期試験(筆記)	100 %	
レポート試験	- %	
平常点評価 ・日常的な授業における取組状況の評価 ・学習到達度を最終的に確認するテスト ・小レポート	- %	

[備考]

受講および研究に関するアドバイス

もし可能ならば、英文で書かれた欧米の新聞・雑誌における国際関係の記事をインターネットで探して読んでください。政策科学に関連する専門性の高い英文の読解力を養うことができますし、日本と異なる欧米のものの見方に触れることができます。最初は難しく感じるかもしれませんが、自分のペースでコツコツやってみてください。

教科書

書名	著者	出版社	ISBNコード	備考

[備考]

参 考 書

書名	著者	出版社	ISBNコード	備考
A Century of War: Anglo-American Politics and the New World Order	William Engdahl	Pluto Press		

[備考]

参考になる WWW ページ

教員との連絡方法

その他